

## ドーニーさんの「20 周年記念メッセージ」と「豊かさ」の深耕

日時：2008 年 9 月 21 日 (日) 午後 2 時から 4 時過ぎまで

場所：アレントウン・ドーニー邸執務室にて

参加者：ボブ・ドーニーさん (B)

和智一郎さん (通訳 W)、二村正さん (N)、佐々木武さん (S)、岩崎昭男 (文責 I)

I：今回、ドーニーさんから TIME 研究会に送られてきた 2 種類のメッセージの和英対比の資料を準備しました。一つは「豊かさ」について、これは今年の 2 月の TIME 研究会の例会で、この内容を紹介しました。もう一つは「20 周年記念誌のドーニーさんからのメッセージ」で、6 月の例会で紹介しました。最初に「20 周年記念誌のメッセージ」に関して和智さんが翻訳された日本語の意味で、一部理解できない部分がありますので質問をします。

まず 1 ページの 3 段目の部分で、

「我々がお互いに分かち合ってきたことを振り返って考え、結論に達したことは、“我々の豊かさの数々の価値が高まり続けていく”ということなのです」

の内容をもう少し具体的に説明をして頂きたいと思います。

B：まず、お金のことを例に挙げます。リッチネスもその一つですが、お金を持っていると少しずつ増えていきますね。それと同じように他の豊さも、それを大事にしていけば増えていくということです。リッチネスと言うのは複数で、豊かさに関しては、お金もあり幸せもあり、いろいろなものがあります。英語の表記は、正確ですから複数でいろいろなリッチネスの中身を示しています。豊かになっていく、すなわち利子を生んでいくということです。即ち、豊かなことをいくつか持っている、それぞれが、豊かな利子を生んで行くということです。お金を貯金して利子を生むように、いいことを持っていることで、豊かになっていくということです。

I：言い換えると、お金だけでなく豊かに感じることを多様に持つことで、人生は豊かになると、考えてもよいのですか。

B：その通りです。たとえば男女が結婚するとし、お互いあまり知らないとします。相手を幸せにしようとするれば、その見返りがあります。そうするとお互いが持っている愛情が、初めはお互いに分からなくても時間が経過することで、お互いの愛情が増していくということです。それもリッチネスということです。

例えば、先にお話したとおり、私には判事の友人がいます。二人の間には、過去のいろいろな出来事の記憶があります。その記憶を大事にしていると、いろいろ思い出して、それがさらに豊かなものになっていきます。

I：ドーニーさんが豊かさについて書かれた部分で、10 の豊かさが取り上げられていますね。(3 ページから 6 ページ)このようにたくさんの豊かさを持っていることが、ここでいう豊かさが増えていくと考えるとよいのですか。

B：もちろん10とは限りませんし、多ければ良いというものではありません。当然ながら、その人個人個人によって違います。

10のリッチネスがあってもその中の全てが上手くいくとは限りません。6つである場合もあるでしょう。例にはあげましたが、10以上あると、多くてとてもコントロールできないことにもなります。コントロール出来るか出来ないかということと、10とを関連付ける必要はありません。

S：日本の場合、お金が増えていくことが、豊かさの象徴のように考えられる一面があります。

B：勿論お金も、沢山のリッチの一つであることは間違いありません。例えば、主人である父親が、5億円とか、10億円を持っているとします。奥さんや娘や息子は、お金に一生懸命であることが気に入らない訳です。即ち、リッチネスと言うことは、人によって捉え方が様々ということです。

例えば、私と息子のケースとで決めたことがあります。彼は有名なフットボールプレイヤーでした。彼は黒人の有名なフットボールプレイヤーのところに連れて行くことを好みませんでした。なぜなら、それは彼らが非常に貧しい環境のところの出身でもあったからです。彼らを、お金が沢山あるところに連れてくるのが嫌でした。恥と言うことはないと思いますが、敢えて連れて来ませんでした。そのようなデリケートな人も居るといことです。

W：結局お金というものは自分が本当に必要のものを買うためには持つ価値がありますが、それ以上あることは決していいことではないとドニーさんは言っています。ドニーさんは会社を売った時は、かなりの大金を手に入れました。その時に息子のケース（彼はとても頭の良い青年で、有名なフットボールプレイヤーですが）が帰ってきた時に、お金は必要なだけあればよい、とすることを息子と二人で話し合ったそうです。お金は自分が幸福を手に入れる限度においては良いが、それ以上になるとむしろ害になる、と言っています。

B：誰かと一緒に旅行するとします。兎も角、旅行には沢山お金を使いますね。例えば、日本に旅行する、アメリカ国内でホテルに泊まる、アメリカンスタイルのホテルに泊まります。結局はお金が沢山あることで、リッチになれば成る程、出費も多くなります。

S：日本の金持ちは、お金があるともっとお金を増やすことに一生懸命になる傾向があります。

B：一生懸命働いて、対価としてもらうお金には意味があります。自分が必要と思って稼ぐお金は価値があります。自分で稼いだ成果を振り返ることができます。或いは、誰かを助けるために使うお金も価値があります。何をしたかによって喜びを感じるのであって、お金があることそのものは喜びではありません。限度があり、それ以上はいらないはずです。お金が神様になってしまい、崇めて稼ぐようになってしまったら問題です。お金が役に立ち、しかも他人のために役に立つなら、限度を考えながら稼ぐことは、意味のあることと言えます。

S：金持ちになって、お金を増やすことだけが目的になっている人は多いですね。

B：それをいくらやってもきりがいいことです。欲しいものがあるとお金を貯めるのはいいのです。目的も無く、ただお金を稼ぐと言うことは意味が薄いのです。

N：日本には昔から「足るを知る」という言葉があります。

B：私が小さかった頃、お金が無くて、父親と一緒に曲がった釘を集めて叩いて真っ直ぐにして、使えるようにしたことがあります。その時は、真っ直ぐな新しい釘を欲しいと思いました。

例えば貧しい二人の夫婦が、家を欲しいと思いました。そして二人が一生懸命働いて家を買ったとすると、このことは値打ちがあります。

しかし、何でも買えるようになってから、一生懸命働いてお金を沢山稼いでも、買えるもの以上の喜びはなくなってしまいます。それが、普通ではないでしょうか……。余計なものを買っても嬉しくもない。

S：ドーニーさんがおっしゃるとおりですが、日本の金持ちを見ていると、家族との話し合いや信仰とかがないから、金を増やすことだけが目的になってしまいます。お金は、金持ちにはわっと集まるが、貧乏人にはお金は集まらないようです。

B：私が現在抱えている問題は、教会の友達のことです。家を買う時には将来の稼ぎを担保にして、アメリカではいくらでも借りられる訳です。貧しい人が大きな家を買うとしますね。その場合、何千万円でも借金をしてしまいます。このことは彼のために有利な条件で貸している訳ではありません。自分で稼げなければ、決して自分のものにはなりません。貧乏な人が家を買っても自分では稼げないので自分の物にはなりません。キャパシティ以上の家が手に入るシステムになっている。現在のサブプライムローンがそれに当たります。

I：次に1ページ目の最後の4段目の次の文章の意味を具体的に説明して欲しいです。

世間で「一つのプロジェクトに何を突き進んだかによって、それだけのものを得る」と言われてきました。多くの時間と、回想と、探求をしてみると「自分が当初理解していたことよりも、ずっとそのことが真実である」という結論に達したのです。

B：例えばある仕事を仕上げようとする時、自分でどのくらい努力すればよいかを考えますね。どのくらい気持ちを入れるか、過去の自分の経験を振り返ってみて分ったことは、自分がした努力に応じたリターンしかありません。自分の努力以下でもなければ、以上でもありません。対価は努力に見合ったものが得られると言うことです。多ければ多く、少なければ少なく、やらなければ来ない、と言うことです。

I：2ページ目の最後の段落で、次のように書かれています。

人生を考え、現在の豊かさ、これから受け続ける豊かさのことを考えると、良い思い出が、最も豊かなものの中に入ると結論できると思います。

自分にとって如何に良い思い出を沢山作ることが大切なんだと感じました。日本人の中には、自分にとって嫌な思い出を作り、愚痴をこぼしたり、他人のせいになっているひとも結構多いと思います。自分が豊かさを求める人生を過ごしたいなら、自分にとって良い思い出を沢山つくるのが大切なことだと感じました。

B：例えば努力をしなくても、資産を親から沢山もらったり、宝くじに当たったりして金持ちになる人がいます。そうすると他人はその人に対して羨ましく思い、嫉妬心が沸きます。しかし一方、その人は運が良いのかもしれないし、自分が努力して稼いでないので、直ぐにその資産を失ってしまうかもしれません。自分で努力した人は自分の記憶の中に、どのようにして稼いだかが分るので、また取り戻せる可能性もあります。しかし、運よく手に入れた人は、取り返す手段が分らないはずです。そうした経験をした人は、「棚から牡丹餅」でお金を手に入れた人に比べて、能力が備わっているので余程幸せのはずです。

S：自分の子供には財産は残さない方が良いとは思いますが、そうも言い切れないところもあります。

B：物凄く難しい問題です。残すべきお金があったとします。自分たちの子供が何かをスタートさせるために助ける（支援）なら良いのです。これを何かのために使いなさいと言ってただお金を与えるのは決して良いことではありません。

I：先程の事柄と同じですね。

B：「種銭」をあげると言うことです。別の例をお話しします。息子のケースがある時、手帳の仕事（注：メモリーバンクのこと）をやりたいと言いました。私が手帳のデザインをしてあげた。大きな紙に印刷して、切断すれば手帳になるようにデザインをしてあげた。それに彼はお金をつぎ込み、私も半分の資金を援助した。ケースはフットボールプレイヤーとしても大きな資金を稼いでいたので、彼自身が出資することができました。小切手帳を使っている人々に使ってもらおうとアプローチをしました。

小切手帳を印刷する会社は、毎年同じようなシステムが動くように息子と考えた訳ですが、その際に手帳も同時に買うようなシステムを考えてあげた。その事業を息子が始めたところ、息子は商売があまり好きではなかったので、結局訳の分からない若い人たちとも付き合ってみて、うんざりしてしまい嫌になってしまった。事業をどうするかということになったが、自分は一切助けることはしなかった。彼自身に私ほどの交渉能力もなく、粘り強さ・忍耐力がなかった訳です。勿論、お金をつぎ込んで助けることはできました。成功をさせるレベルまで持って行く事も出来たと思います。しかし、私はそれを行わなかった。彼自身はその事業に対して取り組むことが嫌になってしまったからです。

結局、家を買っても自分のお金で買うから嬉しいのであって、親が援助をし過ぎると本人をダメにってしまうことにも通じます。

W：私もその会社を作ったことは知っていたが、親としてドーニーさんが何故助けなかったのかと思っていましたが、その理由を今の話で理解することができました。その決断が本人のためだと言って

いるのです。

B：リッチを求めることは、自分が努力して稼ぐことが嬉しいのであって、そのもの（お金）がリッチではないのです。その喜びに対して、汗水流して働くことに意味があり、他人からお金をぽんと投資してもらっても、本当の意味での楽しさは生まれないということを言いたいのです。

現在、キースは別の道を歩んでおり、教育関係の仕事を担当し、成果をあげています。彼の場合は、独立心がないので、ある会社と組んで事業をやっています。今はある会社と組んでファイナンスの仕事をしていますが、おそらく数年するとその仕事も嫌になり何かをしようと思っています。彼は本当は、チーズやワインを作ることが好きなので、その関係の事業をしようと思っています。彼が自分でその気になるまでじっと待っています。加勢すれば本当の意味でのリッチにはならないと思っています。本人にその気にさせる熟成の期間と考えています。

S：しかし、その選択はとても難しいことだと思いました。

B：お金でも幸せでも、必要な分だけがあれば良いのであって、余計にある必要はありません。余計にあると余計のことをしてしまい、結局は本人にとり負担になってしまいます。

S：ドーニーさんが言うように親は我慢出来ずに、結局手を出して助けてしまう親が多いのです。

B：この世で一番難しいのは、良い親になることです。親は、息子や娘が失敗することを横で見たくないわけです。

W：ボブはキースが手帳を作ることに投資はしたが、結局は才能がなく事業は失敗して投資は無駄になってしまった。

B：今は、彼は一つのセグメントとしてモチベーション（動機付け）のことを教えているが、おそらくそのことには飽きてしまい、違うステップアップすることをやるかどうかを、じっと見ていることにしています。

彼は、プロのフットボールでかなり稼いだわけです。その時、やりたかったことは、マネジャーになって稼ぐことだけではなく、どのようにプレイをするか、プロのフットボールプレイヤーは契約金として、2億円、3億円が稼げます。しかし、そうした大きな金額は直ぐに使ってしまったり、騙されてしまうプレイヤーも居るので、資金をどのように投資し、上手に運用するかも教えようかということも考えています。契約金を受取った以降の生活の中で役に立つ、お金の使い方を教えようともしています。殆どの方は正しいお金の遣い方が分からないため、現実には直ぐにお金がなくなってしまう事態に陥ってしまいます。彼は、将来はそうしたコンサルタントを行うことになるかもしれなません。

S：親がそうして見ている時に、子供側からは何で自分が困っているのに親は助けてくれないのか、と言ったり、或いは親を恨むようなことはないのでしょうか？

B：親からは、智恵を提供することはあっても、絶対にお金を出してはならないのです。

例えば、こう言う例を考えます。子供にお小遣いをあげることにします。10ドルが必要ならアルバイトをするように指導をします。さらに10ドルが欲しいと言ったならば、更に自分で稼ぐようにさせてお金を直接渡すことはしません。本人をスポイル(ダメ)してしまいます。子供に支援すると言うことはそう言う事なのです。

S：おっしゃることは良く分ります。

B：次に、もっと良い例をお話しします。私は、自分の孫たちを信用しています。私は、両親も若かったりして、カレッジに行くだけのチャンスがありませんでした。孫たちを助けるためには、学費の半分は出してあげるが、後の半分は自分で稼ぐように指導し、全額は出しません。親が全額を出すから勉強をやれ、と言うのは甘やかしです。

S：親の処し方は良く分りました。日本の場合は、親が子供を全面的に支援しないと、子供が親を恨み、親のところには二度と来るもんか、と言うことになる。親と子供の関係が決定的におかしくなるケースが時々あります。親は、子供のことを思ってやっけていても、子度は人生経験も少なく、親の気持ちを押し量ることが出来ない。

B：ポイントは、全額の支援を行わず半分ということ。自分が半分は稼がなければならないと言う状況は、自分で稼ぐことによって、その10倍以上の価値と言う経験を学ばせることになり、それが親としての大切な考えなのです。

親の中にはこうした考えを理解しない者も居るかもしれませんが、そうしたやり方を行うことで、「紐を付けておく」ことになり、自分たちで考えるきっかけにもなる訳です。

S：元に戻って、先程の2ページの「良い思い出が、最も豊かなものの中に入ると結論できると思います。」については、TIME研究会の20周年を記念して、私たちがドーニーご夫妻をこうして訪問していることがその典型的な実例だと思っています。本当に良い思い出になるので、「豊かさ」を実感しています。

B：特に、他の人を助けると言うことも非常に大きな「豊かさ」に繋がる喜びにもなる訳です。自分の体験を分かつことができます。孫たちに話したことは、孫たちが成長するに従って、手紙などくれて、私への感謝の言葉が書かれています。

もう少し良い例を話しましょう。孫たちが大学に行って、クレジットカードを使うようになり、孫たちはどんどん使ってしまうようになる。そして払えなくなってしまう。私が孫たちにやったことは、困ったと言うことを聞いたので、孫をここに座らせて、自分が借金して払えない事柄を書き出させた。そして彼らの銀行に行き、そして私が、孫たちの保証人になりました。

クレジットカードで使える金額は、ものすごく大きい訳です。クレジットカードで使ってしまう、返しきれなくなってしまう。孫と一緒に銀行に行き、彼の保証人になります。返すお金は、銀行と取引して保証する訳です。金利が半分で済むことになります。本人が全額返すことになります

が、金利をキープすることで全部を払いきったら、金利を返してあげることになります。このことはお金で直接支援することではなく、智慧を与えることになります。こうした支援をおじいちゃんにやってもらったことで感謝の気持ちを持つようになりました。

判事の友人であるヤングさんに、TIME 研究会にお送りした今回の二つの資料はコピーをして渡しました。

S：日本では父親がドーニーさんと同じように厳しくやっても、母親が蔭でこっそり子供たちにお金を渡して援助するケースも多いのですが、それに対する対応はどうすればよいですか？

B：そうした事態はいつも起こることです。それに対する対応は、夫婦の考え方を同じようにしておかなければなりません。

S：夫婦で話し合うと言っても、なかなか父親の価値観を母親が理解し、納得することが現実には難しい。母親は社会経験が少ないため、理解できないのです。

B：実は、亡くなった妻のオードリーとは、午後10時から11時まで、必ずお互いの考え方の一致をみるために、いろいろの出来事を話し合う時間を持つようにしました。そのように習慣づけないと非常に難しい。オードリーも仕事を持っていたので、そうしたことをぴしっと強制したのです。

勿論、反対の部分があっても、調整をすることが大切なのです。貴方とはこのことはどうしても賛成できない、ということがあります。だけど、賛成はできないが貴方の言うとおりに従います、と言うことがある。次の時は、賛成は出来ないが、従うと言う妥協をすることになる。

結局、結婚して大切なことはコミュニケーションだと言うことです。と言うのは、同じゴールを持たないとお互いが協力し合えない訳です。ゴールを一緒にして目的を持ってくるようにすれば、成功しても失敗しても、お互いの責任でやるので決して問題にはなりません。

以前、3本の椅子の脚のことで、1本がなくなりバランスを欠くことの問題を話したことがありますね。共に語り合って、分かり合うことがどんなに大切であるかと言うことです。オードリーとは寝る前に毎日話し合っていたことで、問題は殆ど発生しなかった。オードリーもデタイマーを持ち、自分もデタイマーを持っているが、両方のアポイントメントを見せ合うわけです。

S：ドーニーさんは自分とアポイントを取るといわれていますが、とても素晴らしいことです。

I：3ページの最後の段落のところで、TIME 研究会に対するメッセージがここで述べられています。

「タイム研究会が、他の人を助け続け、その人たちがどのように時間を使い、書物や交友関係から得た知識と共にどのように彼らの人生を生きるかの最高最善のものを見つける手助けをし続けますようにと。」

この部分は、成る程と思いましたが、更に私たちに付け加えるメッセージやヒントがあればお聞き

したのですが・・・。今までは、TIME研究会では、自分たちの豊かさを追求をしてきましたが、この部分では20周年の活動を経たことで自分たちだけでなく、他の人たちにも手助けをして欲しいと言われたことで自分の考えを外部に発信する必要があるのかと感じましたので、その真意を聞きたいと思います。

B：100回記念誌などで皆さんそれぞれが自分の体験を文章にまとめたことでそれぞれが、他の人たちのために発信をしているのではないのでしょうか。自分たちの経験を毎月の幹事会や、2ヶ月毎の例会で話し合っていること、そのことが他の人に役立つことをやっているのではないのでしょうか。特別に新しいことをやるというより、現在の活動そのままのことを言っているのです。会員以外の人たちに話すこと、コピーを渡すことなどで手助けをしていることになっているのではないのでしょうか。

例えば、本日ここで話したお金の使い方のことを話したことで、他人に伝授することになるはずで、それを聞いた人に自信を与えることにもなり、またその人が別の人に伝えることにもなるはずで、

I：今までTIME研究会で活動してきたことを、自然にそのままに活動を続けていけば良いということなのですね。ドーニーさんの「豊かさ」のメッセージなどもそれを求めている人たちに与えることも良いと考えたいと思います。

B：TIME研究会で個々の会員が行っていることも積極的に伝えることも大切です。情報があっても使わないと宝の持ち腐れになります。

例えば「パティオ(テラス)」を作るといふ本があるとします。本はあるだけでは意味はありません。「パティオ」を作らなければ意味が無い訳です。

I：TIME研究会にドーニーさんの過去の論文を含め、過去の活動の記録が蓄積されていることに大きな意味があるということですね。

S：二村さんが担当しているウェブサイトでの発信も素晴らしいことです。今日教会での牧師も、TIME研究会のウェブサイトを見て、ドーニーご夫妻の写真をプリントアウトした実例もあります。

W：是非英語版のウェブサイトを作りましょう。翻訳はお手伝いしますから。

S：あまり最初から欲張らずに、大事なメッセージのみ英語版を作って公開したら良いのではないのでしょうか。

N：ドーニーさんの論文は既に英文になっているのでこのままウェブサイトに公開しても宜しいですか。

B：勿論、OKです。本を出版して儲けてもいいですよ。(笑い)

N：先日お渡しした20周年記念誌（CD版）には、今までのドーニーさんの論文（英語版を含む）が全て収録されています。

B：私の論文は、どうぞ自由に公開してもらって構いません。TIME研究会に著作権を譲ります。

W：欧米では、デイトイマーのオーナーであるドーニーさんは著名なので、広く世間に公開することは意義のあることです。デイトイマーの手帳は、アメリカは勿論、イギリスでもオーストラリアでも、手帳を出してと言えばデイトイマーのことなのです。アメリカでは、手帳の代名詞がダイアリーとは言わずに、デイトイマーと呼ばれているほど普及しています。

実は、ドーニーさんは一般の小売店では売りませんでした。これを使う人はアポイントメントの沢山ある、弁護士、公認会計士、ビジネスマンなどに通信販売でしか売らなかったのです。通信販売で電話を受けるオペレーターが約200名も居ました。2年分欲しいとか、弁護士事務所からはまとめて何十冊欲しいとか、電話で注文が来る訳です。一般の人からみると、値段は高くて使い物にならないということで、小売はせずに通信販売だけに絞ったのです。

B：パソコンについてアドバイスしてくれる人が3人います。何が出来るかを、マニュアルで読むだけです。どう操作するかは、分かりません。パソコンで何が出来るかを知るだけで、後は理解していません。自分は、全然やらない。このことが大切です。

息子のクレイが来てくれて、ファイナンスなど全部処理してくれます。それが、私の成功の秘訣です。

I：「豊かさ」の論文で、1ページ目の3段目に、

「新訳聖書では、イエスは富を測るものとして、行われた行為、友情、長生きした人生等、とあります。物質的な所有には価値を置いていません。」と記されています。

B：その通りです。

S：何となく印象としては、アメリカ人は聖書に書かれていることとは違うのではないかと思います。まずお金がありき、だと言う印象を私は持っています。

B：その通りです。

S：そう言う事なら、アメリカ人は皆さん、聖書の教えに反している訳ですか。

B：そうした人々は教会に出掛けて聖書の教えを学ぼうともしません。物質的な所有が人生にとって大切なことだと思っている人々が、アメリカにも沢山居ます。ところが実際にはそこまでいくと、別の豊かさがあることを追求しないでお金を追い求める人が大勢居ます。

W：日本と同じですね。

B : オードリーが「少ないほうが、より豊かである」言っていました。所有が多過ぎると、豊かではなくなってしまう。

I : 先程、二村さんが言われた日本の諺の「足るを知る」に相当しますね。

B : ある海岸の場所に、コンドミニアム(別荘)を1軒持っていました。この家にしてもそうですが、一度手に入ると中々手放せない面があります。その別荘はある時に売却してしまいました。売却してしまいましたが、別荘の代わりにホテルのスイートルームを借りて、休みの時にはそこで過ごす方が快適です。物として持つ必要がないと思いました。別荘を持っていると、孫たちがその別荘に行って、悪い遊びをする可能性もある訳です。孫から「別荘を使っていい?」と言われれば、中々NOとは言えないでしょう。自分たちが行きたい時には、費用は高くてもホテルに宿泊した方が価値があると考えて売却しました。丁度2年前です。過去を振り返ると、別荘を持っていても2年間全く行かなかった時もありました。売却した時には、ヘーゼルは怒りましたが、頻繁に使うものでないので、売却したことは良かったと思います。

W : 日本の諺で、「めかけと別荘は持つものではない」に当たるのですね。

B : 私が現役で働いていた時は、別荘は凄く便利で役に立ちました。ビジネスの電話も外部から掛からないように電話は置かなかつた。ビジネスが忙しい時には、息抜きのために時々出掛けていました。仕事の関係の書類などは一切持たず、仕事からは全く距離を置く環境にしていました。別荘のことはビジネスに関係する人には一切話しませんでした。

W : 現役の時のドーニーさんは、1,000人以上の従業員を使っていた訳ですから、いろいろ連絡が来ることをシャットアウトしていたのですね。

N : 物とお金は少ないほど「豊か」と言うことですか。

B : いや、必ずしもそうとは言っていない。まず、物もお金も両方とも大切です。それを所有することで人生を愉しむことができます。それらを「大事過ぎるもの」の位置づけしてしまうと、問題であると言っているのです。

良い例を話します。私はワインが好きです。でも自分はケチで10ドル以上は払いたくない。最近では25ドルとか、30ドルのワインを買うようになってきた。そして沢山買います。分ったことは、沢山お金を支払うから良いワインが買えるとは限りません。私の新しいゴール・目的は、1本、30ドル、40ドルのクラスのワインを、10ドル、20ドルの価格で買えるようにすることです。10ドルとか、20ドルのワインは沢山あります。そして現在、30ドル、40ドルで買ったワインとどれだけ味が違うかを確認中です。味の差があるかどうかを愉しみにしています。

ここで言いたいことは、お金は大切ですが、使い方が大切であることを言いたいのです。僅かなお金でも工夫すれば大いに愉しむことができるのです。昨日行った店でも、5ドルで買えることがわか

りました。たとえ30ドル所有していても、5ドルでも同じ楽しみ方があるということです。ワインを例にして話したのであって、お金が沢山あることが必ずしも自分の満足に繋がることではないということをお話ししたかったのです。

多くの金額を払えばいいものを手に入れることはできます。しかし、それでは面白くない。やはり比べて安い値段で美味しいものを味わえる方が面白い。

W: アメリカ人はケチでしっかりやっている人も多い。それを誇りとしている訳です。日本の場合は、レアケースですが・・・。

B: 今大事にしているものを失っても、私にはいろいろな楽しみをもっているのです。心配はありません。例えばディナーに行きますね。高級で値段の高いところに比べて1/3位の値段の安いところに行くとします。昨晚行ったところも、以前は結構値段が高かったのですが、最近はまだあの値段になりました。そこにそれだけの値段を払う価値がなくなったので、行く気がなくなりました。そのことは自分自身の考え方なのです。

N: 人間関係で、様々な人々を知っているということは素晴らしいことではあります。人数が多ければ多いほど、いいと言う訳ではないと思います。私の場合、少なくともいいと思っています。

B: 全くその通りだと思います。ただの友達関係よりも、本当の値打ちのある友人関係が大切だと思います。以前は1,200人ほどの社員が居る会社を経営していましたが、現在はそうした関係はありませんが、それでも困らないし、大事な人はずーと付き合いは続いています。本当に親しくしていた友人は早く死んでしまったこともあります・・・。

W: ところでボブは、何歳ですか？

B: 1925年生まれで現在82歳です。

I: 日本では高齢化社会で、確か全人口の20%位が65歳以上の高齢者を占めていたと思います。認知症とか、老々介護などで夫婦が歳をとり、お互いが介護をし合うと言う現実があります。アメリカの場合は認知症とか、老々介護などが大きな社会問題化しているのでしょうか？特に、ドーニーさんのお母様の場合は、100歳でお元気な姿を見ると、アメリカは日本とは違う現実なのかと思いました・・・。

B: 日本と似ているとは思いますが、夫婦が二人とも介護の状態になれば、フルタイムの看護師を雇って2階に住んでもらい、1階に夫婦が暮らして、何かあった場合は面倒を見てもらうことは出来ません。一般の人や、裕福でない人に対しては、政府として面倒を見る機関もあります。アメリカでも大きな問題のはずですが、あまり詳しくは分かりません。裕福でない夫婦を支援するガーディンシップという名前の非営利団体があって、私たち夫婦もその団体に寄付をしています。政府もその寄付に相当するお金を出して、助けるシステムがあります。

教会が中心になって、政府も援助して、ホームレスとか、困った人とか、病気の人たちを助けるシステムはあります。しかし、働きたくない人や、全く能力の無い人も居て、施設としてはファンドがあつて面倒をみています。しかし、ホームレスをやりたい人も居るわけで、そういう人にはどうしようもありません。政府と教会が中心になって、面倒をみて欲しい人には面倒をみる仕組みが出来ています。だから野垂れ死にする人は居ませんが、それでも施設から逃げる人もいます。

S：年金制度はしっかり機能しているのですか？

B：アメリカの場合は、会社とか組織によって、それぞれ制度が違います。ソーシャル・セキュリティと言う国の制度があつて、300から400ドルの年金が支払われています。また、日本と同じで収入によって積み立てた額に応じて年金が支払われています。

全員：本日は体験された貴重なお話を、本当にありがとうございました。

以上